

介護者にとって満足度の高いケアプランは、在宅要介護高齢者への虐待を抑制するか？¹

富山大学経済学部 両角 良子

〒930-8555 富山市五幅 3190 富山大学経済学部

TEL: 076-445-6450 E-MAIL: morozumi@eco.u-toyama.ac.jp

高齢者介護での虐待は深刻な社会問題である。身体的・心理的虐待、介護・世話の放棄・放任、経済的虐待、性的虐待など、虐待の種類は様々である。介護保険制度では、ケアマネジャーまたは介護者（または要介護者本人）が作成する「ケアプラン」（「介護サービス計画」）の役割の一つとして、高齢者虐待の早期発見・防止をあげている。

本研究では、在宅介護において、ケアプランが介護者の要介護高齢者への虐待の抑制に貢献しているかを検証する²。すなわち、適切なケアプランが介護者から要介護者への虐待の抑制に効果的であるかを検証する。具体的には、介護者のケアプランへの満足度が高い場合に、介護者から要介護者への虐待の頻度が低下するかを分析する。

また、ケアプランに基づく介護サービスの利用が虐待の抑制に効果的であるかについても、合わせて検証する。介護サービスとして、訪問介護（身体介護型・複合型・家事援助型）、訪問介護入浴、看護婦などの訪問、リハビリ専門職の訪問、医師・歯科医師・薬剤師の利用、デイサービス、デイケア、ショートステイ、福祉用具レンタル、用具購入、住宅改修を分析対象とする。分析では、財団法人連合総合生活開発研究所が実施した『介護サービス実態調査 2001』『要介護高齢者の介護者調査』の個票データを用いる。

計量分析の結果、以下の二点が観察された。第一に、ケアプランの満足度が高い介護者ほど、要介護者への虐待の頻度が低いことが観察された。これは適切なケアプランが要介護高齢者への虐待の抑制に効果的であることを表している。第二に、訪問入浴介護を利用する場合やリハビリ専門職の訪問がある場合に介護者の虐待の頻度が低く、デイケアを利用している場合に虐待の頻度が高いことが観察された。

訪問入浴介護とリハビリ専門職の訪問が虐待の抑制につながる理由として、ほかの介護サービスと比較した場合、要介護者の健康状態を観察する機会や身体に触れる機会が多いため、暴力行為の痕跡を確認しやすいことなどが考えられる。

また、デイケアを利用している場合に虐待の頻度が高くなる理由として、高い頻度で虐待するほどの身体的負担・精神的負担を抱えているため、デイケアを利用していることなどが考えられる。

¹ 東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJ データアーカイブよりデータの提供を受けている。

² 調査票に介護者による要介護者への虐待の頻度をたずねる項目があるため、この項目から虐待を把握する。回答するのは介護者である。「要介護者に対し、虐待（オムツの交換や食事などの世話の放棄、暴力、暴言）をしたことがありますか。」という問いに対し、「よくある」「ときどきある」「あまりない」「まったくない」という回答項目がある。分析では、これらの回答結果を使用する。